

令和6年度第5回みんなでまちづくり推進会議 議事概要

日時：令和6年10月31日（木）18：30～

場所：境港市保健相談センター 講堂

出席 松本幸永（会長）、三原真由美（副会長）、足立勲、池淵匠、舛岡彩子、松田真二、宮本剛志、
安原真弓、吉田明広（9名・敬称略）
欠席 遠藤緑、河岡雅、丸山誉覚（3名・敬称略）
事務局 小川博史（総合政策課長）、立花順平（同課政策企画係長）、安達麻優子（同係主事）

1 境港市民活動推進補助金審査

（1）NPO 法人元気みなと 「境港こども落語会」

申請団体によるプレゼンテーションの後、審査し、欠席委員の事前書類審査も含め、採択と決定した。

2 第9期取組テーマについての協議

（1）前回までの協議内容

- ・これまでの協議では、「まちづくり」には色々なテーマや課題があるが、これらは市の各部署で取り組まれていることが多いため、行政が取り組んでいないことやこの会議でしかできないことをしたい。また、みんながまちづくりに関わっていくためには、どのようにしていったら良いか、どんな仕掛けが必要かなど、どちらかというところ「みんなで」に力点を置いたテーマにしたい、という方向性になっている。（事務局）
- ・第8期は「みんなで」に力点が置かれ、これまでの意見から、「より多くの人にまちづくりに関わってもらうためには」をテーマとし、①自分の好きなこと得意なことからアプローチする、②市民活動推進補助金の点検・見直し、の2点が議論のポイントと考えている。（事務局）

（2）市民ワークショップの結果（アイデア）について

- ・令和3年に開催されたワークショップでは、①「交通問題」、②「無関心層が一定数いて活気がない」、③「空き家が多い」、④「若者が行きたくなるような魅力的な場所が少ない」、といった意見が出され議論された。（事務局）

（3）第9期取組テーマについて

- ・この会議は、より多くの市民が参画されることを目指す方向性なのか？（委員）
⇒条例の趣旨は、市だけが施策を進めるのではなく市民の意見をより多く反映させたいという目的のもと、この会議が発足している。市へ提言いただく機関。パブリックコメントといった制度はあるものの、意見が出ないのが現状であり、この会議でご意見をいただくとともに、まちづくりに関心を持っていただける市民が増えることも目的のひとつ。（事務局）
- ・市の施策に対する市民参画を増やすことと、そのための補助金制度の見直し、どちらも大事なテーマと感じる。決めきれない、というのが正直な意見（委員）
- ・補助金の制度を変えていこう、というテーマであれば意見が出しやすいし、一般の人はどのように関わっていけば良いのか、分からないのが実情だと思う。（委員）
- ・市民活動補助金は、市民全員に恩恵が広がる必要があるような先入観があるかも知れない（委員）
⇒最初のスタートのハードルを金額的にも低くして、やりやすいものにする案も考えられる。また、個人の立案事業が、この会議で認められれば信用度というか後押しにもなると思う。

(事務局)

- ・今年8月の二中校区「わいわいトーク」で、小学生・中学生・大人がグループで、大人と子どもと一緒に楽しめることをテーマに話した際、中学三年生が「大人と一緒に海や川のゴミ拾いをしたい」と言われた。先日、都会の大学生が来てゴミ拾いしたイベントに補助金を出したが結果はどうだったのか。(委員)
⇒第3回の審査で補助採択を決定いただき、市もゴミ回収の部分で協力したほか、美保ライオンズクラブや観光協会も協力し、市民ボランティアとともに清掃活動が行われる予定。(事務局)
- ・この補助金が、どのように有効活用されているのかをチェックする必要があると考えている。その上で今後の審査の参考にするのが良いと思う。(委員)
- ・補助金の活用自体は、きちんとされており問題はないと考える。(委員)
⇒年度末に実績をまとめ、これまでも報告しており、今年度も報告する。(事務局)
- ・より多くの市民に参画いただくために、補助金の有効利用を、実績報告をもとに検証するとともに、制度の見直し、といったテーマにしていきたい。(会長)
- ・制度を厳格化して、「ほとんど通る」という状態を見直すのもひとつの策と考える。(委員)
⇒金額の大きなものは、きっちりとした審査を必要とする反面、小規模なものは申請を簡易なものにして申請数を増やすという方向性も考えられる。(事務局)
- ・市内のゴミが気になる。どのようにテーマにするかは難しいが……。審査・申請については、どんな事業も「通る」という実情は疑問を感じている。(委員)
- ・補助金制度の見直しは、アンケートも良いな、と考えている。(委員)
- ・各委員の30点満点の審査で、13点をつけた委員もあり、それなりの理由があると思う。20点以上が多いなかで。(委員)
- ・小さい金額で、例えば「子ども食堂」とかでクリスマスとかのイベントをするときに、ボランティア経費も含めた補助を考えてはどうか。(委員)
⇒今の制度では当てはまらない事業に、補助の枠を広げる方向性もある。(事務局)
- ・この補助金を使っていない団体もあり、使っていない理由も気になる。(委員)
- ・補助金制度を通じて「まちづくり」につなげる、そのために「制度の在り方を見直す」という方向性と感じている。(会長)
- ・関わる人数によって、金額を決める方向も考えられる。(委員)
- ・制度を知らない層もあるかも知れない。(委員)
- ・簡単な申請が制度化されれば、またそこに人が集まるかも知れない。(委員)
⇒事務局で整理して、議論のポイントを提案したい。(事務局)
- ・プレゼンテーションをするのと、書類を詳しく作るのと、どちらが申請者にとって大変なのか。(委員)
- ・補助金がまちづくりに活かされているのか、広がりも含め、制度の改正は、同じような活動でも広がれば目的には合致している気がする(会長)
- ・ハッシュタグとかでPRをつけるとかすれば、横に広がる可能性もある。(委員)
- ・ゴミを出さない町。コロナも落ち着いたなか、イベントでも食べたものが会場に置きっぱなしになっていて残念だった。(委員)

(4) まとめ(事務局)

- ・補助金の制度改正を含め、まちづくりの「広がり」が大事として、もう少し議論を深めていきたい。